



保護者・地域の皆様へ

新型コロナウイルス感染症対策の継続により、制限の多い中で活動することの多かった令和3年度でした。保護者・地域の皆様には、例年と異なる学校教育の推進に当たり、ご理解とご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

さて、過日実施しました学校評価アンケート基に学校関係者評価を行い、来年度に向けての方向性と改善策をまとめました。来年度も、学校教育活動に丁寧に取り組み、子どもたちの学校生活の充実を目指します。

なお、皆様から、学校に向けて多くの激励の言葉もいただきました。ありがとうございました。これからも本校の伝統を大切にするとともに、子どもたちの可能性を一層伸ばしていけるよう、教職員一同努力してまいります。

令和3年3月

校長 小田切 利幸

伊勢小学校のホームページでも公開します



| 重点 | 項目 | 番号 | 評価者 | 質問紙項目 | 4 4 そう思う 3 ややそう思う 2 あまりそう思わない 1 そう思わない | | | | 自己評価(取組状況・成果・課題) | 改善策 |
|----|------|----|-----|-------------------------------|--|------|------|-----|--|---|
| | | | | | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| ○ | 規則徹底 | 1 | 教師 | 児童は、きまりを進んで守っている。 | 18.2 | 81.8 | 0.0 | 0.0 | いずれの調査対象についても、肯定的回答が90%を超えており、日々の指導が実を結んできているととらえることができる。ただ、少数ではあるものの、否定的回答をした児童の指導と、否定的にとらえている保護者に改善を感じてもらえるよう努めていく必要がある。 | ○集団生活の中で、守るべきルールや自分のすべきことの必要性を理解させ、主体的に行動できるよう指導を重ねる。 ○個人差に対応できるよう、日常的にきめ細かく個々に寄り添った指導を行う。 ○児童会活動等と連携しながら、自ら活動しているという意識を育む。 |
| | | | 児童 | きまりを進んで守っていますか。 | 51.8 | 42.3 | 5.9 | 0.0 | | |
| | | | 保護者 | 児童は、きまりを進んで守っている。 | 60.3 | 38.3 | 1.4 | 0.0 | | |
| | 教育相談 | 2 | 教師 | 学校は児童の心の問題に対応する体制が整っている。 | 54.5 | 40.9 | 4.6 | 0.0 | 教師、児童の積極的肯定は増加しているものの、教師の否定的意見も少しではあるが増加した。保護者については、肯定的回答が昨年度と同割合であった。今後も継続して教育相談が効果的に実施され、更に学校の雰囲気が、相談しやすいものとなるようにしていきたい。 | ○きずなの日を有効に活用し、日頃から児童と触れ合う時間の確保に努める。 ○保護者と学校の距離が近くなるように関係を深め、日常の連絡を工夫し家庭訪問や懇談会等の充実を図る。 ○SCや外部諸機関との連携を強化するだけでなく、学校内における情報の共有に努める。 |
| | | | 児童 | 先生になんでも相談できますか。 | 45.9 | 33.6 | 15.9 | 4.5 | | |
| | | | 保護者 | 子どものことについて、学校には気軽に相談できる。 | 49.6 | 44.7 | 5.0 | 0.7 | | |
| | あいさつ | 3 | 教師 | 児童は学校や地域であいさつがよくできている。 | 4.6 | 63.6 | 31.8 | 0.0 | 90%近くの児童が挨拶をすることに対して肯定的な回答をしており、周囲の捉えと自己認識のずれが認められる。こうした差は、大人と子供の捉え方の違いによると考えられる。大人は元気よく挨拶ができる子供を理想としているが、子供は自分がした挨拶が届いていないとは考えていないと思われる。保護者の自由記述にももっと元気のよいあいさつを望む声があった。今後も一層取り組んでいく必要がある。 | ○今年度の取り組みを継続するとともに、あいさつの大切さや具体的な方法を指導する。また、教師自ら範を示す。 ○児童会の取組等あいさつ運動を継続する。 ○あいさつ運動の取組の様子を通知等で家庭に知らせ、学校、家庭や地域と連携して取組を推進する。 |
| | | | 児童 | 地域の人やお友達に進んであいさつをしていますか。 | 60.0 | 26.8 | 10.9 | 2.3 | | |
| | | | 保護者 | 子どもは、家庭や地域であいさつがよくできている。 | 31.2 | 41.1 | 26.2 | 1.4 | | |
| | 読書活動 | 4 | 教師 | 学校は朝読書や読書週間など、楽しく読書活動を推進している。 | 72.7 | 22.7 | 4.6 | 0.0 | 教師の積極的肯定は増加しているが肯定的回答全体の割合変化はあまりない。児童の肯定的回答は、わずかに減少している。保護者の肯定的回答が10ポイント以上減少している。読書に関しても、よく読む子供とそうでない子供と二極化し、読まない子が固定化している実態があり、読書の習慣化に向けての取り組みを継続していく必要がある。 | ○引き続き、図書館主任、司書、委員会を中心に、読書週間の取組、特に家庭での親子読書等を意識し、児童の読書に対する意識を高めていく。 ○コロナ禍では難しい面もあるが、朝の読書の時間のボランティアや教職員による読み聞かせ、児童の発達段階に応じた本の紹介を行うことにより、読書の幅や質的向上を図る。 |
| | | | 児童 | 進んで読書をしていますか。 | 51.4 | 23.6 | 17.7 | 7.3 | | |
| | | | 保護者 | 子どもは家庭で読書をしている。 | 22.0 | 32.6 | 35.5 | 9.9 | | |
| | 学校生活 | 5 | 教師 | 児童は毎日喜んで登校している。 | 27.3 | 72.7 | 0.0 | 0.0 | 昨年度と同様に、どの評価者種別においても、9割以上が肯定的回答をしているものの、否定的回答も依然としてあり、少数ではあるが様々な要因で学校に楽しさを感じることができない子供たちが存在している。学校では、こうした子供たちへの対応を続けてきているが、今後も、よりきめ細かな対応を継続していく必要がある。 | ○教師と児童、児童同士の信頼関係を高められるよう楽しくメリハリのある学級経営等に取り組んでいく。 ○きめ細かな児童観察を行い、気になる児童へ積極的に言葉かけを行う。 ○連絡帳や電話等で家庭との連絡を密にし、児童の状況や対応について共有する。 |
| | | | 児童 | 学校生活は楽しいですか。 | 73.2 | 18.6 | 6.8 | 1.4 | | |
| | | | 保護者 | 子どもは、毎日学校に行くのを楽しみにしている。 | 46.8 | 44.0 | 6.4 | 2.8 | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------|-----|-------------------------------------|---------------------------------------|------|------|-----|-----|--|---|
| | 学習意欲 | 6 | 教師 | 児童は進んで学習に取り組んでいる。 | 22.7 | 77.3 | 0.0 | 0.0 | 教師の積極的肯定が増加している。児童、保護者の回答の内、積極的肯定が減少したが、肯定的回答の割合はほぼ変わっていない。これまでの取り組みが定着し始めていることが考えられる。一方、否定的回答も一定割合ある。コロナ禍で、意欲を持ち続けることが難しい状況もあるが、今後も家庭学習も含め、楽しく学習に取り組めるようにしていく必要がある。 | ○各種調査、アンケートなどを活用し、児童の意欲向上のための授業改善に努める。 ○学習指導要領の考え方を具現化するために教材研究を深めたり、研修会に積極的に参加したりしながら、主体的・対話的で深い学びが実現できるような授業を目指す。 |
| | | 児童 | 自分から進んで勉強していますか。 | 49.1 | 34.1 | 14.1 | 2.7 | | | |
| | | 保護者 | 子どもは、学習に意欲的に取り組んでいる。 | 31.9 | 51.1 | 15.6 | 1.4 | | | |
| ○ | 学習指導 | 7 | 教師 | 学校は基礎・基本の定着が図れるような学習をすすめている。 | 68.2 | 27.3 | 4.5 | 0.0 | 学習指導要領の改訂を受け、本校では、昨年度に引き続き、学習指導の工夫改善に力を入れてきている。その成果が現れ、どの回答者の領域においても9割前後とほとんどが肯定的回答をしている。今後もより一層指導力を磨き、効果的な学習指導が実践できるようにしていきたい。 | ○授業では、基礎的基本的な学習内容の定着も図れるような教材・教具の工夫を行う。 ○アクティブ・ラーニングやユニバーサルデザインの考えに基づいた授業を実践する。 ○引き続き、児童一人一人の学習状況について、より丁寧で確かな理解(評価)ができるよう取り組む。 |
| | | 児童 | 授業はよく分かりますか。 | 69.5 | 26.4 | 3.6 | 0.5 | | | |
| | | 保護者 | 子どもは学習の内容を理解している。 | 41.1 | 51.1 | 6.4 | 1.4 | | | |
| | 学習習慣 | 8 | 教師 | 学校は学習習慣定着に向けた取組を推進している。 | 59.1 | 40.9 | 0.0 | 0.0 | 教員と保護者はともに積極的肯定の割合が大きく下がっているが、児童の回答は、肯定的回答が9割近くあり、認識の差が大きい。様々な指導を行ってきたが、まだ改善の余地がある。今後も家庭と連携しながら、必要感を持ちながら主体的に学習に取り組める子供を少しずつ増やせるようにしていきたい。 | ○校内研究等の場で、児童の実態に合った家庭学習の在り方について検討する。 ○保護者の理解や協力を得て取り組んでいく。 ○家庭学習の手引きを活用し、学年だより等で知らせる。 ○継続的に取り組むことにより、習慣化を図る。 |
| | | 児童 | 家で宿題や自由勉強をしていますか。 | 60.5 | 27.7 | 7.7 | 4.1 | | | |
| | | 保護者 | 子どもは、各家庭での学習習慣が身につけている。 | 30.5 | 44.7 | 20.6 | 4.3 | | | |
| ○ | 心の教育 | 9 | 教師 | 学校は児童の豊かな心の育成を図っている。 | 68.2 | 31.8 | 0.0 | 0.0 | どの評価者においても、積極的肯定が増加している。児童や保護者は、肯定的な回答が9割以上で大変多く、学校教育の成果を認めていただけていると思われるが、課題を抱える子供たちも少なからずいるのでよりよい指導ができるよう改善していく必要がある。また、開発的・予防的な指導によって、その数を減らしていくことが重要である。 | ○深い学びにつなげられるよう、道徳授業の改善を行い、道徳的实践力等を高める。 ○日常生活から課題を適時適切に取り上げ、道徳や学活、帰りの会などの機会を生かし、解決方法を学ぶ場として、考えたり話し合ったりさせる。 ○「いじめ」については、未然防止や早期発見・早期対応を行い、組織的に対応する。 |
| | | 児童 | だれとでも仲良くしていますか。 | 73.6 | 20.9 | 5.0 | 0.5 | | | |
| | | 保護者 | 子どもは優しい気持ちや社会性が育っている。 | 61.0 | 38.3 | 0.7 | 0.0 | | | |
| | 健康・食育 | 10 | 教師 | 学校は体力向上、健康増進の指導を推進している。 | 59.1 | 40.9 | 0.0 | 0.0 | 教員の回答では積極的肯定は増加したが肯定全体の割合は変化していない。保護者では、肯定的回答がわずかだが増えている。本校は、過去食育の研究指定校であったが、それを引継ぎ健康や、食に対する意識を高める指導が続けられている。ただ、心の状況やコロナ禍での活動の制限、その他児童を取り巻く環境により実践できていない児童がいるため、引き続き努力を続けていく必要がある。 | ○体力向上を目指し、体育授業の充実に努める。体力づくりの取組も継続する。 ○食育・健康についての学習を、学校栄養教諭・養護教諭と連携して行う。 ○食育・健康に関する放送や掲示を委員会活動を中心に計画的に取り組む。 ○学級担任は、「給食だより」や「保健だより」を効果的に活用する。 |
| | | 児童 | 早寝・早起き・食事・運動など、健康に気をつけるようにしていますか。 | 57.7 | 30.0 | 9.5 | 2.7 | | | |
| | | 保護者 | 子どもは健康や食事に気をつけている。 | 34.0 | 53.9 | 9.9 | 2.1 | | | |
| | 生徒指導 | 11 | 教師 | 学校は基本的な行動や学校のきまりなどについて、適切に指導している。 | 63.6 | 36.4 | 0.0 | 0.0 | 本校では、家庭と連携しながら、生徒指導上の諸課題に取り組んできた。どの評価者においても肯定の割合が90%以上で大変多く、その成果が現れていると考えられる。ただ、否定も少ないながらも存在し、課題が残されていることを示している。今後も、心の問題としてもとらえながら指導に当たっていききたい | ○開発的・予防的指導を行い、問題発生時には迅速な対応を行う。 ○約束、きまりについてはなぜ必要かを考えさせながら、発達段階に応じた形で指導を徹底していく。 ○様々な機会に保護者や地域の方々より情報をいただき、取組を行っていく。 |
| | | 児童 | 学校のきまりや家での約束を守っていますか。 | 63.6 | 32.3 | 4.1 | 0.0 | | | |
| | | 保護者 | 学校は、子どもの生活や行動について適切な指導をしている。 | 62.4 | 35.5 | 2.1 | 0.0 | | | |
| ○ | 安全 | 12 | 教師 | 学校は校舎内外の施設・設備の安全が確保されている。 | 86.4 | 13.6 | 0.0 | 0.0 | どの評価者種別においても、肯定的回答が非常に多く、97%に上っている。施設についての質問も含まれており、本校の施設・設備が老朽化し、使いづらい面があることを示している。これまでも支障があればその都度対応してきたが、すぐに建替えが困難である以上、今あるものを工夫し、より安全に使っていく必要がある。 | ○自らの判断で身の安全が確保する力が付けられるよう、計画的に指導を行う。 ○児童の安全意識が高まるように、各学級で機会をとらえて指導をしていく。 ○避難訓練や不審者訓練の際、ねらいや意義について指導する。 ○予告なしや緊急地震速報を使った訓練を実施するなどして、実践力を高める。 |
| | | 児童 | 安全に注意して生活していますか。 | 85.0 | 12.3 | 2.3 | 0.5 | | | |
| | | 保護者 | 学校は、子どもたちの安全確保のために、適切な指導や配慮をしている。 | 61.7 | 36.9 | 1.4 | 0.0 | | | |
| | 開かれた学校 | 13 | 教師 | 学校は学校開放や情報発信など、保護者や地域社会に開かれたものとなっている。 | 72.7 | 27.3 | 0.0 | 0.0 | 保護者は、肯定的回答が大変多い。教員は積極的肯定は増加し、肯定全体では変化がなかった。保護者の否定的回答は少数ではあるが、昨年度と同程度あり、保護者や地域に対する情報発信等に、力を注いでいく必要がある。 | ○行事等の持ち方を工夫改善し、教育活動をより理解し、協力してもらえるようにしていく。 ○ホームページ、学校だより、学年だより等で学校の様子を知らせていく。 |
| | | 保護者 | 行事や授業参観・学校開放日などの回数及び、学校からの連絡は適切である。 | 62.4 | 34.0 | 2.8 | 0.7 | | | |